特集1 NHK大河ドラマ『江』

◆「江（ごう）～姫たちの戦国」

◇津を舞台に江の幼少期描いて

平成23年のNHK大河ドラマが、近江国小谷城主・浅井長政と織田信長の妹、市との間に生まれた末娘「江」の生涯を描いた「江（ごう）～姫たちの戦国」に決まった。

記念すべき大河ドラマ第50作目の脚本を担当するのは、「篤姫」で全国に一大ブームを巻き起こした田渕久美子さん。視聴者からは「どのような江を見せてくれるのか」と早くも熱い関心が寄せられている。

その「江」ゆかりの地が、津市にある。現在の津市河芸町の本城山公園にあった伊勢上野城を始め、安濃津城や四天王寺などだ。江は幼少期の8年余りを織田信長の弟信包のもと、母・お市の方と姉・茶々、初と過ごしたとされている。ぜひ津を舞台に幼き頃のかわいい三姉妹を描いてもらえればと思う。

◇「江」役は上野樹里さん！

NHKは2月17日、大河ドラマ「江（ごう）～姫たちの戦国」の主役に女優の上野樹里さん（23）を起用したことを正式に発表した。

「江」は波乱の運命にありながら三回目の結婚により、徳川家康の息子・秀忠（後の徳川二代将軍）の正室となり、8人の子を出産する。江戸城に大奥を作り、その後永く続く時代の基礎を作った人である。

若手女優の中でも演技力に定評のある上野さん。「江」をどのように演じるのか、ますます放送が楽しみとなってきた。

崇源院「江」（京都市養源院蔵）

◆NHK大河ドラマ「江」を応援する会

◇活動報告

NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国」の放送決定に伴い、江らが幼少期を過ごした津が、ドラマの舞台として登場かと期待が高まってきた。江ゆかりの名所・旧跡がある津市にとっては、全国的にアピールする絶好の機会だ。

そこで昨年11月27日、「NHK大河ドラマ『江』を応援し、ゆかりの地である津市を積極的にPRし、津の魅力を発信していこう。地域の観光産業振興や活性化に取り組み、元気な津をつくろう」と飲食業や観光業、市民グループなどが発起人となり、NHK大河ドラマ「江」を応援する会が発足した。

設立発足会には、発起人や市民ら約40人が参加。参加者は、同会役員で安濃津ガイド会会長でもある西山光正氏から津市内にある江ゆかりの地などについて説明を受け、理解を深めた。

同会では今後、江ゆかりの地を「情報誌Z」や観光マップで広報、観光資源の整備や探訪の企画、伊勢上野城巡りの観光ボランティアガイド養成など、幅広く活動していくと発表した。

同年12月9日には、初めての活動となる「伊勢上野城跡巡り探訪」を開催した。参加者約50人は、ゆかりの地の同城址や伊勢街道上野宿、円光寺などを巡り、はるか昔に思いをはせた。

今年1月16日には、第1回勉強会を津市北河路町のメッセウイングみえで開催。会員を始め市民ら45人が参加し、系図や年表などを使い、「江」や伊勢上野城の歴史などを学んだ。

2月20日には、「ゆかりの地をきれいにして観光客を迎えよう」と伊勢上野城址の清掃活動も実施した。

また現在、同会では幼年期の江をイメージしたゆるキャラ系のキャラクターを募集中（3月末日締切）。「着ぐるみやグッズを作り、地域活性に繋げたい」と精力的に活動を展開している。

お問い合わせは、㈱エムテック内同会事務局・FAX059（235）4388。

平成23年NHK大河ドラマ『江』～姫たちの戦国～ お江ゆかりの地 伊勢上野城跡観光マップ

伊勢上野城跡への交通のご案内

駐車場：近鉄名古屋線橋津上野駅下車　徒歩約20分
車：伊勢自動車道津IC～県道10号線(津駅前)～県道55号線～国道23号線経由　約30分
観光駐車場有(50台程度)
無料駐車場：
周辺：伊勢上野城の城跡にある公園に、アスレチック広場や多目的広場、野鳥広場、日本庭園、バーベキュー場が設置されていて、家族連れや中高生が体を動かしたり、バーベキューを楽しむことができます。上野城本丸跡につくられた展望台があり、遠くは鈴鹿山脈の山々が一望でき、四季折々の海や山の風景を楽めることができます。

平成23年NHK大河ドラマ
『江』～姫たちの戦国～

お江ゆかりの地 伊勢上野城跡観光案内

伊勢上野城跡　津市河芸町上野

伊勢上野城は、現在の津市河芸町上野の伊勢街道沿いの、旧上野宿の西側背後の台地に造られた中世の城でしたが、その築城時期は不明で、室町時代に造られたのではないかと推定されてます。当時安濃郡分部(現在の津市分部)を本拠地としていた分部氏が、いつのころからか長野（工藤）氏の一族となり、1548年（天文17年）ころ長野氏からこの城を預けられて在城しました。

上野城跡本丸跡と天守台跡の展望台

二の丸跡

二の丸下の郭跡の泉殿

遠構の溝跡

その後1568年（永禄11年）に、長野氏は織田信長の伊勢国侵攻により信長と戦いましたが、和睦して長野氏は信長の弟信包を養子とし、信包は長野氏の宗主（本家の跡取り）となり、1569年（永禄12年）11月に信包に５万石を与えて伊勢上野城の城主としました。城主となった信包は、上野城を安濃津の仮城として、山の上の平地をすべて城地に編入して城を分部左京亮光嘉に命じて改修築城させました。信包は、上野城主となってから本城の安濃津城を築くため、1571年（元亀２年）から、普請奉行を分部光嘉に命じて、安濃津の地（現在の津城跡）で安濃津城築城に着手しました。その２年後の1573年（天正元年）に、浅井長政と妻の信長の妹お市の方と三人姉妹（茶々、初、江）が居城していた近江国小谷城が、織田信長に滅ぼされて落城すると、生きのびたお市の方と三人姉妹は、信長の計らいで岐阜城と清洲城に一時滞在したあと、翌年の1574年（天正２年）に伊勢上野城の信包のもとに預けられ、親子ともども信包の世話になりました。

その後1580年（天正８年）に安濃津城が完成すると、信包は安濃津城（のち津城と称するようになる）へ移り、お市の方と三人姉妹も信包とともに安濃津城へ移りました。信包が安濃津城へ移ると、上野城は安濃津城の出城となり、分部光嘉が城代として在城しました。しかし、1582年（天正10年）に本能寺の変で織田信長が滅び、続いて豊臣秀吉が天下を取ると、信包は秀吉から嫌われて上野領を没収され、近江国へ転封させられました。そのため、上野城の城代であった分部光嘉は、秀吉から１万石を与えられて、上野城主となりました。その後安濃津城籠城戦の論功行賞により、家康から１万石の増禄を賜わり、２万石の上野城主として引き続き勤めました。

光嘉は翌1601年（慶長６年）に病死し、後継者光信が上野城主となりました。しかし、1608年（慶長13年）に藤堂高虎が津藩主として伊予国から転封されると、その後上野藩領は紀州藩領になって、上野藩は廃藩となり、1619年（元和５年）、上野城主光信は近江国大溝（現在の滋賀県高島市高島町大溝）へ転封されて、上野城は廃城となりました。

以後荒廃したまま400年近く経ち、現在に至っています。現在は、天守台跡、本丸跡、二の丸跡は当時のままほぼ形を残しているほかは往時の城郭の状態ははっきりとしていません。しかし、中世の城としては、津市内でも比較的保存状態がよく、この機会に整備して観光資源として活用してほしいものです。

輝雲山光勝寺（きうんざんこうしょうじ）

光勝寺は、臨済宗妙心寺派の寺で、上野城主分部左京亮光嘉が、1601年（慶長６年）に長子光勝の死を悼んで、円光寺の塔頭として創設した観世音堂で、光勝の名を寺号として光勝寺と名付けました。

観音堂

光勝寺本堂（右）

光勝寺山門

本尊は聖観音菩薩とし、分部氏の祈願所としました。1619年（元和５年）に、分部氏が近江国大溝へ転封された際、当寺も大溝へ移されたため、残された堂宇は1699年（元禄12年）に破壊され、その位牌は瑞雪院に合祀されて光勝寺の名は一旦消滅しました。

しかし、1751年（宝暦元年）、第７代中興寂現（じげん）が現在地に堂宇を新築して再興したと伝られています。1897年（明治30年）の火災によって堂宇は焼失し、1901年（明治34年）に再建したものが現存している本堂です。

本堂左隣にある観音堂は、往時は現在の本堂左手前に建てられていましたが、1894年（明治27年）に現在の位置に移されたものです。

伊勢街道上野宿　津市河芸町上野

津市河芸町上野の伊勢上野城東麓にある町家は、もともと上野城主となった織田信包が上野城を改修した際に造り上げた町で、1619年（元和５年）に上野藩が廃藩されて紀州領となってから、上野の町は伊勢参宮客や伊勢神宮参拝の諸大名の通行が頻繁になり、明治維新まで伊勢街道の宿場町上野宿として繁栄しました。宿場町は約2kmにわたって軒を並べ、宿屋は27軒あり、その中でも丸屋（のちに鳴子屋となり、後世には中屋と称した）は、本陣となっていました。また、多数の宿泊客相手の妓楼（遊女を置いて客を楽しませる店）ができたほか、多くの商店が軒を並べました。

上野宿街並み

弘法井戸

現在では、民家も現代的なものに改築されていて、伊勢街道の名残はほとんど残っていませんが、馬繋所で馬に水を飲ませたという井戸が、「弘法井戸」として祀られています。

萬松山円光寺

円光寺本堂

円光寺山門

円光寺は臨済宗東福寺派の寺で、東福寺第９世痴兀大恵の弟子照室性（恵）寂禅師が開山したもので、1358年（延文３年）に、伊勢国栗真村庄中山（現在の津市栗真中山町）に創建したと伝えられています。室町幕府の官寺として荘園も賜った由緒ある寺院で、応永４年（1397年）に室町幕府から祈願所に指定されました。

元亀年間（1570～1573年）、現在地（上野城城屋敷）に移って、上野城主分部氏の菩提寺となりました。その後、1619年(元和５年）分部氏が江国大溝へ転封された際、当寺も大溝へ移されましたが、あとで領主となった紀州藩によって旧伽藍はそのまま当地に存続されて現在に至っています。

本尊は、元は宝冠釈迦如来坐像でしたが、分部氏が近江国大溝へ転封し代りに観世音菩薩を本尊としました。1941年（昭和16年）に、住職が没して一時無住となりましたが、1975年（昭和50年）東福寺から鈴鹿市の龍光寺の僧が住職に任命されて、兼務しています。

上野神社

上野神社の創設時期は、1675年（延宝８年）の棟札裏書に、最初の建立は何年か分からないと書かれていて、不明です。その棟札には、最も古い棟札は1406年（応永13年）のものが存在していたとしていて、それ以前から存在していたと思われます。江戸時代には「上野八幡宮」と称していましたが、明治維新後「八幡神社」と改められ、更に1908年（明治41年）に、上野村内の10社と山神４社などが合祀して、「上野神社」と改称されました。もともと参道は、伊勢街道から入って登る道で、現在も伊勢街道からの入口に鳥居と碑が建っています。戦後上野城跡西側に道路が開通して、従来の参道が分断され、古来の参道は石段から、舗装された道路になってしまいました。

古来からの参道入口

上野神社鳥居

マリーナ河芸

マリーナ河芸は、伊勢湾に面したヨット380隻を収容できる大規模のヨットハーバーで、マリンハウス、会議室、カフェレストラン、クラブハウスのほか、隣接してマリンスポーツセンター、親水公園があって一般人も楽しめる憩いの施設です。

南国調のマリーナ河芸風景

マリーナ河芸停泊場とマリンハウス